

会 議 録

会 議 名	(仮称)小金井市貫井北町地域センター建設実施設計 第3回市民検討委員会		
事 務 局	公民館		
開 催 日 時	平成23年9月8日(木) 午後7時から午後9時30分		
開 催 場 所	市役所第二庁舎8階 801会議室		
出 席 委 員	渡辺委員長 浅野副委員長 福島委員 多田委員 伊藤委員 桂委員 平井委員 雫委員 三島委員 中村委員 藤井委員		
欠 席 委 員	松尾委員		
事 務 局 員	天野生涯学習部長 大関公民館長 田中図書館長 杉村図書館 主査 池田建築営繕課副主査 黒田建築営繕課主事 山崎庶務係長 渡辺事業係長 樋口庶務係主任		
事 業 者	株式会社 前川建築設計事務所 橋本、田中、畑野 株式会社 横山建築構造設計事務所 根津 株式会社 ユニ設備 嘉部(電気設備)、鳶田(機械設備)		
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	0
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
会 議 次 第	<p>1 前回の質問事項等について</p> <p>2 図書館のゾーニングについて (蔵書数を減らした上での書架配置等)</p> <p>3 公民館主要諸室の利用形態の確認と仕様について (第2回市民検討委員会の続きと遮音についての考え方)</p> <p>4 構造設計について</p> <p>5 設備設計について</p> <p>6 次回の開催日程について</p> <p>7 配付資料</p> <p>(1) 質問事項回答一覧 …実施設計検討委員会資料 10</p> <p>(2) 小金井市子ども文庫サークル連絡会からの要望書 …実施設計検討委員会資料 11</p> <p>(3) 1階平面図・2階平面図 …実施設計検討委員会資料 12</p> <p>(4) 室内騒音の許容値・遮音性能に対する音源別の聞こえ方 …実施設計検討委員会資料 13</p> <p>(5) 遮音グレード検討図 …実施設計検討委員会資料 14</p> <p>(6) 仕上表 …実施設計検討委員会資料 15</p> <p>(7) 空調熱源 システム比較表 …実施設計検討委員会資料 16</p>		

会 議 結 果

大関公民館長 (仮称)小金井市貫井北町地域センター建設実施設計における第3回目の市民検討委員会を開催する。

会議開始にあたって

大関公民館長 委員の退任とそれに伴う取扱いについて報告する。
過日、皆様にお知らせしたように、この検討委員会において皆様と共にご尽力いただいていた仙波委員が6月30日にご逝去された。仙波様のご冥福を心からお祈りする。

欠員の取扱いに関してもお知らせしているが、事務手続き等を考え、在務期間が少なく、かえってご迷惑をおかけすることにもなりかねないことから、欠員補充は行わないこととしたのでご理解をいただきたい。

欠席者の報告について、本日は松尾委員から欠席のご連絡をいただいている。

配布資料の確認と会議録のご承認をお願いしたい。事前に資料10-質問事項回答一覧と前回の会議録をお送りしている。

本日はお手元に式次第と資料11-「小金井市子ども文庫サークル連絡会からの要望書」から資料16-空調熱源の関係資料までとなっているので確認をお願いしたい。

— 配布資料の確認 —

大関公民館長 前回(第2回)会議録のご承認をいただきたい

—承認 多数—

渡辺委員長 皆さん、こんばんは。

市民検討委員会の第三回ということで、2時間という限定的ななかではあるが、活発的な議論をお願いしたい。

お手元の次第に従って進めていく。

1. 前回の質問事項等について

山崎庶務係長 事前に配布している「資料10-質問事項回答一覧」については既にご覧いただいていると思うので、この場での説明は省かせていただき、この回答への質問等をお受けする。

渡辺委員長 検討委員会資料11については別ということか。

山崎庶務係長 資料11については、松尾委員から同様のご質問をNo.2でいただいているので、そちらの回答をご覧いただき、詳しくは図書館長の方からご説明する。

田中図書館長 要望書の件については公民館の山崎から説明があったように、質問事項No.2と重なっている部分が多いため、図書館としては同じ回答と考えている。

渡辺委員長 この件については前回も議論したことで、浅野先生からもこの委員会できちんと結論を出した方がよいのではないかとお話があった。私の記憶では図書館の中はスペースが限定的であるので、その中にボランティアの部屋を設けることはしない。今回は2階建ての

施設で、1階と2階が完全に切れた運営ではなく、2階の集会室をボランティアの方々に上手く使っていただくために、本を持って2階に上がる際いちいち退室の手続きをとらずに利用できるように図書館側で検討していただけるということになったのではなかったか。

田中図書館長

委員長がおっしゃった通り、利便性が高いかたちにしていきたいと考えている。

渡辺委員長
浅野副委員長

浅野先生から何か補足等はあるか。

この委員会は実施設計の市民検討委員会ということで、基本設計を受けての色々な話はあると思うが、運用についての話となると、この限られた器のなかでどうやって使っていくかというのは別の問題として起こっているのではないかと考えている。それを一緒に議論してしまうとこの検討委員会の性格が変わってしまうのではないかと考え、この委員会で決めることと出来ないことをはっきりさせた方がよいということをお話しした。

平井委員

皆さんのお手元に文庫連からの要望書があると思うが、私も文庫連の委員として、この要望についての補足説明をさせていただきたい。今のボランティアが入る多目的室に関係があるので構わないか。

渡辺委員長
平井委員

はい。

小金井では図書館に協力するため文庫連をはじめ様々なボランティアが勉強をしている。そういった勉強をするために図書館に行く回数が非常に増えている。現在の本館にはそのためのスペースがなく、階段を上がったところなど、かなり不便な状況で行っている。図書館の役割というのは単に本を貸し出すだけではなく、市民を本に誘う様々な活動をするところで、特に子供時代に読書の習慣をつけることは大変重要で、そのためにお話し会や読み聞かせ等の活動が行われているが、ご存知のように小金井は周りの市と比べ図書館の数も少なく、職員数も余裕がなく大変お忙しくされている。私たち小河内先生の指導を受けた者は、先生の意味をついで子どもの読書を支えるお手伝いをしてきた。

また、講演会に使う参考図書の資料集めや講師の作品の準備にもかなりの時間を費やしている。参加者に対して十分なことが出来るように、お話しベテランを交えて本を前もって読んだりして前準備を行っている。その際に本の受け渡しが行われるが、安全な棚がどこかにほしい。そういう意味では中に作業室があることが大切で、万が一本をなくしてしまったら大変なことになる。

先般、伊藤委員から紹介された武蔵野市の武蔵野プレイスに行ってきた。こちらと違って規模も大きいですが、児童室の中に大きなサポータールームがある。あそこまで大きくなくてよい。我々は職員も入れるような小さい多目的室を要望したが、それも出来ないというのはどうしてなのか分かりかねる。

絵本の勉強会では20冊くらい用意するが、多くの資料の中から

必要な本を選びリストを照合したりするが、そういう作業をするスペースがなくて困っている。

この勉強会は文庫連を中心に30年程続いているもので、月に1回20名程が集まって行われている。小河内先生のご指導があってのことであるが、先生がお亡くなりになってからも続いている。月の担当者が20冊ほど用意してきて、それをみんなが持ち帰り、学校などで実践し、また紹介しあって勉強する会である。担当者が二人いる場合には30冊から40冊の本を持ち寄って話し合っ、その中から選ぶことになる。先程、2階に持って上がる際には配慮するとおっしゃっていたが、貸出しの手続きもしないで本当に持って行けるのか。それだけの量の本をどうやって持って上がるのか。非能率的な、無駄な手間が職員の方や我々にもかかることにもなる。我々がお話し会を引受ける際には細かな準備をし、予行練習もしたうえで図書館に協力している。9月17日にも行うが、明後日から準備にとりかかるくらい気を遣っている。

催し物や講演会では2階を使わせていただくことはあると思うが。

あまり長くなると他の話が出来ないので手短かにお願いしたい。

私たちは小河内先生の指導を受けているのでどんな状況でもやろうとするが、今回はもっと多くの方が協力しながらやっていくような素敵な北町分館ができると期待していたので、そのために小さくてもよいがサポーター室を隅の方でも構わないのでつくっていただきたい。それが私たちの切なる願いであるので、文庫連の委員長に代わって説明させていただいた。

おそらくここにおられる方も部屋をとらない方がよいと思っている訳ではなく、スペースの関係の中で厳しいのではないかというのが前回の会議の話ではなかったか。それにこの会議は実施設計を議論する場なので、運用の話に入り込んでいくと先に進まなくなってしまう。ただ、今の話の中で、この中にボランティアの部屋をどうしてもとれないのか、或いは20冊から40冊の本を一時的に図書館から持ち出すことが出来るのか、その両方共がなくなってしまうとなると、ご心配されるのはよく分かる。その点についての図書館のお考えは如何か。

現状の文庫連さんの活動について申し上げますと、お話し会は緑分室で月に1回、本館は年に4回程度、東センターで年に2回程度行われている。まだ貫井北でどのようなボランティア活動をしていただくか決まっていないが、例えば緑分室の例でいえば、月に1回程度であれば貸し出して2階に上げるのも、それ程の手間ではないと思う。回数がすごく増えてしまうというのであれば別だが、現時点では回数を極端に増やすことも考えていないので、地域館ということからすれば広いスペースではないので配慮していただきたい。

この前、緑で科学あそびをした際には10回ちかく足を運んだ。材料等も市民の方では買えないので図書館と何度も相談して購入し

渡辺委員長
平井委員

渡辺委員長

田中図書館長

平井委員

てもらったが、職員の方と話していてちょっとでも声が大きいと、うるさいと怒鳴られたこともあるが、それでも小さくなりながら頑張っている。

図書館でするときだけでなく、学校での読み聞かせにもみんなが頑張っていると思う。そのあたりを配慮していただけるとありがたいのだが。

渡辺委員長

図書館側は配慮するとはおっしゃっている。中に部屋をとるのは非常に厳しいが、2階に持って行くことについては出来る限りのことはしましょうというお話だと思う。それではまずいいのか。

どうしても中に必要なのか。

平井委員

40冊とかを持ち出しても構わないのか。

渡辺委員長

具体的な方法は図書館の方で考えていただけると言っているので、実際に持ち出すといっても今は自動貸出機等もあるので、以前のように人が全部チェックするよりもだいぶ簡単にチェック出来るようになった。或いはボランティアの人が数えて、図書館員の方がまとめて2階の小会議室とかに持って行くことも出来ないことではない。

田中図書館長

なるべく簡便な方法で持ち出せるように配慮する。

平井委員

その配慮の一つとして、この前緑でやったときにも3回程事務室の中の応接セットのところで職員と打合せをさせていただいたが、今度はすごく広くなるのでもっと立派な応接セットも入ると思う。そういう中に入って行くよりは、小さな部屋でも別にあつた方が図書館にとってもよいのではないか。緑の場合には仕方なく中に入れていただいて打合せしているが。

田中図書館長

今おっしゃられたことが頻繁にあるようでしたら、それはそれで考えなければならないと思うが、例に挙げたようにそれ程数も多くないし、お部屋をご用意しないと言っている訳ではない。地域センターなので2階の公民館の協力を得て配慮したいと考えている。

渡辺委員長

この件に関して、他の方のご意見はどうか。

浅野副委員長

図書館の職員と市民が協力してやっていくということは大変素晴らしいことで、地域センターのよりよい運営になろうかとも思うが、図書館の運営そのものがサポーターの援助がないとやっていけないのか、そのあたりの実態が見えないところではあるので、もし市民の協力を前提とした図書館運営を考えているのであればサポータールームも必要かと思うが、一般の活動のなかの市民活動となると、スペースと本の問題はあるかもしれないが、2階のフリースペースや場合によっては学習室等の場所を使ってやるということで、むしろそういう活動の方が他の市民にも見えてよいのではないか。

雫委員

よく分からなかったのだが、ボランティア室というのは何の目的の部屋なのか。本を選ぶためのボランティア室なのか。

平井委員

本を選んだり、学校に行ってお話し会をされるお母様たちを集めて勉強会を行ったりする。

平 委 員

それであれば、一つのサークル活動とみて2階でやられたら如何かと思う。

渡辺委員長

繰り返しになるが、図書館に十分なスペースがあればその中にボランティアの活動スペースや色々な集会スペースを含んだ図書館も確かにある。この後、前川事務所から説明があると思うが、前回の検討委員会で本の数と書架の配置についてもかなりぎちぎちに詰まった状態ではないかと話があったくらいで、それをもう少しゆとりをもたせて気持ちのよい図書館にしていただけないかというお願いをして、その検討の結果を聞かせていただけるので、まず基本的な図書館の機能を充実させるということが今回の第一目標になっており、そのあたりでご配慮いただけるとありがたい。

ただ、ここにいる委員の方も皆さんそのようにお考えだと思うが、そういった市民のボランティア活動に冷や水をかけるようなつもりは全くない訳で、是非図書館とも上手く連携をしていただいて、本を持ち出すにしても図書館の方が対応していただけるような不便のないよう工夫をしていただきたい。そのあたりは図書館長もいらしているので開館後も宜しくお願ひしたい。

2. 図書館のゾーニングについて

—映像、資料 12 及び模型による説明—

前川・田中

前回（第2回）の協議内容に基づき、図書館内部のレイアウトについて図書館と調整した結果を報告する。

主な変更箇所は以下の通り

- ・蔵書数（6.3万冊→5.5万冊）
- ・ボランティア室は公民館を利用する
- ・予約受取室、BDSは将来対応スペースを確保
- ・ブックポストを建物南側に設置（図書館事務室側はなし）
- ・お話し室の出入口を拡張（約1.5m→約2.0m）
- ・読書テラスへの出入口は貸出カウンターから見える位置
- ・読書テラスから交差点側の歩道に通じる通路（階段）を設置
非常時のみ開放可能な扉の設置
- ・ブラウンジング廻りのスペースにゆとりをもたせる
- ・庇が浅い閲覧コーナーの西面に一部壁を新設（西日対策）
その他の窓は縦型ブラインドで対応

渡辺委員長

今の説明で分からない点や気になる点があったら発言をお願いしたい。

平井委員

文庫連等でも図面を見ながら検討したが、今回ブックポストを南側に置いていただけたり、西日対策として壁を設け、掲示板を設置していただいたり、非常時に開放できる扉を新たに設けていただいたり、お話し室の出入口を広げていただいた点などは配慮していただけたと思っている。ただ、児童書が1.5万冊に減っている。緑が2.5万冊、東が2万冊あるのに対して新しくできるところが1.

5万冊では少なすぎる。先程、今回の案はA案でもB案でもないと言明があったが、実際にはA案に近いように思える。

ここに図書館ができれば、周辺の学校へはここから本を選んで持って行くことになると思うので、緑や東といった他の分室よりも少ないのは淋しい気がする。

図書館長から日野市の図書館を紹介していただいて、他の委員の方と見学に行ったが二箇所とも児童コーナーは広がった。

渡辺委員長
平井委員
渡辺委員長

児童書の数については設計者というよりは図書館の判断になる。数はそうだが、ゾーニングについても前回とかなり違っている。児童コーナーが圧迫されたのではないかというご指摘だと思うが

平井委員

前にB案でいくという話だったので、それならば何とかやっていたらと思うが、A案に戻った感があるので如何なものか。

渡辺委員長
田中図書館長

そのあたりの判断はどうか。

前回の議論のなかで、多少書架を間引いてゆったりとした図書館にしたいという話があったので減らすことにしたが、私から児童書は1.5万冊確保していただきたいと申し上げていたもので、その要望通りに配置されていると理解している。

渡辺委員長

前回の6万冊の時は一般と児童の数はそれぞれどれくらいだったのか。

前川・田中
渡辺委員長

児童が1万8千8百冊、一般が約4万冊であった。

今回は児童が1.5万冊に一般が3.5万冊なので、児童も一般も共に4千冊から5千冊減ったことになる。児童書だけを減らした訳ではないので、ご理解いただけないかという話である。

平井委員

あれだけ狭い緑で2.5万冊、東で2万冊あるのに、ここは少ないのではないか。

渡辺委員長

その話は前回の話に戻ってしまうので、図書館というのは本の置場という役割をもっているが、あまりぎちぎち本が詰め込まれた空間ではなくて、もう少しゆとりをもたせた方がよいのではないか。市内に幾つかある館同士は本来協力しあうべきものでもあるので、ここに全部ないといけないというのではないという話もあった。

平井委員

それは分かるが、狭いところでさえもそれくらい入っているのに、ここは少ない印象がある。

渡辺委員長

おっしゃることは分かるが、本がたくさんあって、ただ借りて持ち出すだけならよいが、そこでゆったり時間を過ごすのには辛いように思えるところもたくさんある。今回は前回の会議のなかでの皆さんのご意向として多少本は減っても構わないから、あまりぎっしり詰め込むのではなく少しスペースをとったらどうかという話をしたので、図書館側も判断をし、前川事務所もレイアウトをしてくださった。児童書だけを減らしたというのでは不公平に感じられるが、どちらも減らしている。ただ、もともとの冊数の割合も違って

前川・田中	いるので、そのあたりの両者のバランスを何とかすることは可能か。
渡辺委員長	その話もあるが、緑館や東館は単純にいうと一棚あたりにたくさん詰め込みすぎているのが現状である。
平井委員	これも前回話したが、90センチ巾に何冊置くか、これはあくまで計算上の数字であり実際には本を入れてみないと分からないのでご理解をいただきたい。
渡辺委員長	私自身は色々な図書館を見てきているが、冊数はこれから先も配慮できるのか。
田中図書館長	これから先配慮するというよりは、図書館がどういった本を買っていくかによって、この数より増えることもあれば、厚い本を買えば減ることもある。ただ、一般的にいうともう少し増える可能性はあると思う。
多田委員	東や緑の例を挙げられていますが、かなり詰め込みすぎている。
田中図書館長	本を取り出すのも困難なくらい詰め込んでいる。同じ轍は踏まないということで、今回はゆとりのある図書館を目指しているのでご理解いただきたい。
多田委員	逆に緑並みに詰め込んだ場合は何冊くらい入るのか。
田中図書館長	一般的には書架の8割くらい本が置かれているのが理想だが、緑や東は本の上の隙間にも詰め込まれて、本が取り出せないような状況である。今回は当初6万冊を考えていたが、ゆとりをもたせるということで1万冊減らした。業者の算定でも5万冊程度が適当ではないかということなので、1万冊へらした数字で想定している。
多田委員	緑や東並みに入れた試算はしていないということか。
田中図書館長	先程も申し上げた通り、東や緑は詰め込みすぎているので、今回は本来の図書館のかたちにしたいたいと考えている。
平井委員	前回の資料7と今回の資料12をもう一度比べていただきたいのだが、ゆとりをもつためにB案から児童書を一列減らして、更にヤングアダルトが児童書の方に下がってきたので、この2枚を比べるとかなり窮屈になるように思われる。
渡辺委員長	ヤングアダルトの冊数は児童書に含まれるのか。
前川・畑野	含まれない。
平井委員	前回、資料7でB案でいくことになったので、そう説明してきたが、今日出てきたものはかなり違っている。児童書が一列減って通路が出来ていて、ヤングアダルトが下に下がってきている。
渡辺委員長	レイアウトについては設計者が考えられている訳で、ヤングアダルトがここにきたら困るとか言い出すときりがない。
平井委員	この前納得したのと全然違うかたちになっている。
渡辺委員長	前回の映像は出せるのか。
	映像が立ち上がるまでに設計者の意図を説明してほしい。
	そういう話はあったが、私は前回説明があったようにレイアウトされていると思うが。
前川・橋本	前回の説明の中でB案が宜しいのではないかと説明したが、それ

でも見通しやゆとりがなさ過ぎるので一部書架を取り除いた経緯がある。メインの通路を設け、ブラウジング廻りも少し広くするために書架のいくつかを間引いている。

—映像にて資料7の説明—

前川・橋本

カウンター前の通路で一般書架と児童書架のすみ分けをし、更に、その通路に対して見通しが利くように書架を減らした。図書館の方からも1万冊減らしても構わないとの見解をいただき、全体にゆとりをもたせるというかたちで本日提案している。

平井委員
前川・橋本

ヤングアダルトも下りてきた。

ヤングアダルトは元々一般書架に含まれているので、一般が3.5万冊、児童が1.5万冊というようにそれぞれが減ったかたちで合計が5万冊（閉架を含めて5.5万冊）となっている。

一つの棚に何冊置かれるか、一般が何冊で児童が何冊かというのは次のステップの話で、まずは動線やブラウジングにもゆとりがあることが大事と考える。蔵書は一般的には増える傾向にあるので、最初から詰め込む必要はなく、そのあたりをどうするかは図書館の姿勢として大事である。

今回提案した内容として、まず図書館に了承していただいた冊数は確保し、カウンター前からメイン通路を広くとって、そこからブラウジングの方に見通しが利く風景をつくり出すということが、前回皆さんと模型を前に語った内容で、そういうプロセスを経て本日提案した内容になっていると考えている。これで進めさせていただきたいと考えている。

渡辺委員長

この件については、基本的に前回の会議に基づいて作業を進められているとこちらは理解しているので、委員の方からのご意見もあるが、実際に運用上何冊あったらよいかというのは図書館の方でお考えいただいて決めていけばよいと考えている。

別の質問だが、先程から話に出ている外部のテラスについて、ここは道路より80センチくらい高いということだが、テラスと植栽の間はどうなっているのか、壁が立ち上がっているのか。

前川・田中

基本的には道路境界（歩道）と植栽の間で段差ができています。テラスと植栽のレベルは同じで考えているが、テラスからそのまま歩道に出られては困るという管理上の問題と、子どもが目を離れた際に段差から落ちては困るという安全上の問題からテラスの先端に手摺りを廻してほしいと市の方から要望されている。この部分の詳細については、次回の外構計画のなかでご説明したいと考えています。

渡辺委員長

1メートルという飛び越える気になれば飛び越えられるし、外から誰か入ってくる気になれば入れる高さなので、上手い工夫をしていただかないと変な垣根みたいなものが出来てしまってもおかしいので、十分検討していただきたい。万が一ここで何か起こるとフェンスで囲われてしまうことにもなりかねないので。

他に何かご意見はご質問はないか。

前川・田中 この出口が二方向避難の避難口にあたるのか。
 図書館の避難はエントランスロビーからを考えていたが、テラスからも避難できるように自主的に設置したものである。

渡辺委員長 法律上の避難口ではないが何かの際には逃げられるということか。

前川・田中 そう考えている。

渡辺委員長 それで外部の扉は外開きではなくて内開きになっている。
 こういったところも凄く頑丈な扉になりがちなので配慮していただきたい。せっかく市民に開かれた施設という感じが失われてしまうことにもなるので。
 他になれば次の議題に移りたい。

3. 公民館主要諸室の利用形態の確認と仕様について (第2回市民検討委員会の続きと遮音についての考え方)

前川・田中 まず公民館の音響と遮音についての考え方を述べてから、各室の仕上げ等について説明する。

—映像による説明—

騒音測定の実施について

- ・平成23年8月29日(月) 16:45~17:25
- ・交差点に面する全3箇所を実施
- ・平均で約61dB~74dBの騒音レベル

—映像及び資料13による説明—

室内騒音のレベル設定(NC値に応じた扉や壁の仕様を決定)

- ・図書館、学習室A・B、北町ホール: NC-35~40
- ・上記以外の部屋(フリースペース含む): NC-40~45

遮音性能に対する音源別の聞こえ方
 (定常的な室内騒音がNC-30~35の場合)

- ・ロック(スタジオで電子楽器を使用)
 80dBカットしても低音が小さく聞こえる
- ・カラオケ
 80dBカットすると空調騒音にマスクされ気にならない
- ・映画
 70dBカットすると空調騒音にマスクされ気にならない
- ・ピアノ、合唱
 60dBカットすると空調騒音にマスクされ気にならない
- ・講演
 50dBカットすると空調騒音にマスクされ気にならない

※NC-30~35の値は静かな時に聞こえるが、空調騒音にマスクされ気にならないレベル

—映像及び資料14による説明—

各室の遮音グレードの検討
 (定常的な室内騒音がNC-30~35の場合)

- ・図書館 : 厚さ 8 ミリ以上のガラスを採用
- ・スタジオ : 浮き構造 (ボックスインボックス) の採用
扉は T-4 等級 (40dB カット) を二重に設置
図書館エリアには影響ない
- ・北町ホール : 扉は T-3 等級 (35dB カット) を二重に設置
図書館エリアには影響ない
※ダンスなどによる体への負担を減らすために
鋼製床組み (体育館床と同様) の採用を検討
- ・学習室 A・B : 床スラブの厚さを増す検討
扉は T-3 等級 (35dB カット) を設置
※ピアノやスピーカーを大音量で使用するような
ことは避ける (図書館に聞こえてしまう)
- ・創作室 : 床スラブの厚さを増す検討
扉は T-3 等級 (35dB カット) を設置
作業機の脚にゴムパッドを貼る
開架室エリアには影響がないように検討
(図書館事務室には少し聞こえる)

前川・橋本

この図書館が置かれている環境、所謂車による騒音がどれくらいかを測定し、その騒音が図書館に対してどのような影響を与えるかを考え、廻りを囲むガラスの厚さを検討して、図書館内部に音が入ってこないよう (多少入ってくるが問題ない程度) に対策を講じる。先程話に出てきた NC30 とか 35 という値は暗騒音とも言われ、建築学会や色々なところで使われている数値で、外部から入ってきたり空調機の音が部屋の使い勝手邪魔にならないレベルでの数値である。部屋の静けさとも言うが、まずそれを想定して、次にその静けさを確保するために必要な構造 (壁や床の厚さ) や仕上げ、扉の仕様 (遮音等級) 等を検討している。

スタジオに関しては空気伝播音として大きな音が出る場合と、衝撃音といって固体を伝わって隣りの部屋に伝わる音が想定されるので、浮き構造にして外部に伝えないようにする必要がある。

ピアノのある部屋も空気で響いてくるが、ピアノの脚を伝って躯体の床に伝わり下の部屋や横の部屋に聞こえてくる。よって、学習室 A・B では積極的にピアノを置く部屋とは考えない。

創作室は会話等については通常の壁で問題ないが、例えば金槌等で叩く音というのは脚をつたって下の階にコツコツと聞こえてくるので、そのような観点から部屋の構造、仕上げ、仕様を決定している。発生音の大きい部屋は音を抑えるための工夫として吸音を多くする。床をタイルカーペットにしたり壁や天井も吸音性のあるものにしたりしている。

渡辺委員長

皆さんの方からこの遮音についてご質問等はないか。

私の方から、2階の床のコンクリート厚さは何センチあるのか。

前川・田中	構造上は15センチあれば大丈夫だが、図書館の閲覧部分については、18センチから20センチくらいでいけるのではないかと聞いている。
渡辺委員長	18センチから20センチとは微妙なところだが。
前川・田中	現在、音響事務所と詰めているところである。
渡辺委員長	上から音がくるのは図書室として好ましくはないので、20センチあった方がよいと思う。
前川・橋本	20センチにするとかなり効いてくる。
渡辺委員長	図書館はガラス面が多いが、このガラスはどのような仕様か。
前川・田中	8ミリ以上のものを考えている。
渡辺委員長	このガラス面については西面にも面しているので、普通だと例えばペアガラスにするとか、単に音だけではなく熱負荷のこともあるので検討していただきたい。
前川・田中	ペアガラスについてはある特定の音だけが入ってしまうという話も聞いている。
渡辺委員長	そうは言っても、そんな話より基本的に入ってこない方が多い。
前川・田中	現在、音響事務所と詰めているところである。
渡辺委員長	是非詰めていただきたい。最初から単板ガラスでやると無理があると思う。公共施設でエネルギー的にも単板というのは、あまりよくないのではないか。
前川・田中	エネルギー的にはおっしゃる通りだと思う。
渡辺委員長	ペアガラスである波長の音が大量に入ってくるという話はあまり聞いた事がないが。どういった波長の音が入ってくるのか。
前川・橋本	ペアガラスの構成にもよるが、高い周波数の音が入ってくることもある。
渡辺委員長	それは検討していただくとして、出来上がった後でこの建物はどうしてペアガラスを使っていないのかという質問が出ると思うので、極力使った方がよいと思うが。エネルギー問題はかなり重要であるので。
前川・橋本	音の問題と省エネの問題を考慮して、どういったガラスを使用したらよいのか検討している。
渡辺委員長	単板というお話を聞いて驚いただけで、ペアガラスも検討していただいたなかでこういう結論を出されたのであれば何も言わなかったのだが。十分に検討していただきたい。
中村委員	十分に配慮されているとは思いますが、特に西側の新小金井街道は通行量がかかなり多いと思うが、それに対するの対応についてお聞きしたい。ここは特に嚴重に遮音していただかないと問題があると思うが。
	—映像による説明—
前川・田中	そのためにまず騒音測定を行ったが、時間帯は交通量の多い夕方を狙い、午後五時前から約40分間で3箇所行っている。 実際に測定した数値をもとに、人が耳で聞き取れる音に補正した

数値の平均が約 61dB～74dB となっていて、先程説明したが、単板の 8 ミリを取り付けた場合にどの程度カットされるかを表わしたグラフが下側のグラフで、数値的には NC-30 から 40 の間に音がおさまるといふ試算が出ている。ただ、先程の省エネに関するお話もあったので、この結果をもとに引き続き検討する。

渡辺委員長

しつこいようだが遮音の話と省エネの両方あるので、施設が出来た後にどうして単板ガラスにしたのか、きちんと説明できるようにしておかないと大変なことになるので気をつけていただきたい。

次の議題に進みたい。

前川・田中

仕上げの話はあるが、後程模型を見ながらご説明したいので、先に構造設計と設備設計について説明する。

4. 構造設計について

—映像による説明—

□地盤調査の報告

- ・平成 23 年 7 月 12 日～平成 23 年 7 月 22 日
- ・全 3 箇所を実施（近隣のデータを参考に計画）
- ・基本設計時に想定していたものと同じ結果が得られた（上層にローム層、その下に凝灰質粘土層、更にその下に礫層となっている）
- ・ローム層を支持層とする直接基礎工法を採用（基礎梁底に厚いスラブを設けて建物全体の荷重を均等に地盤に伝える）
- ・地盤の耐力は問題ない（建物の重量が最大で 1 m²あたり 7 トンから 8 トンくらいに対して、地盤の耐力が 10 トンである）

□耐震計画

- ・多数の者が利用する施設ということから、耐震安全性の分類における「Ⅱ類」と同等の耐震性を目標とする
※Ⅱ類：大地震動後に構造体の大きな補修をすることなく使用できる
- ・重要度係数として I=1.25 を採用し、建築基準法で定められている地震力より 25%割増した地震力にて設計を行う。（通常の建物よりも高い耐震性を確保する）

□遮音について

- ・2階の床スラブは 20 センチくらいあったほうが望ましい。2階全体を厚くするのか、限られた部分だけにするのかは今後検討する。

渡辺委員長

先程申し上げた 20 センチというのは、基本的には図書室の上の部分と考えている。

地盤は非常によいということで、断面もきれいにでている。

杭がなくても安定するというので、当初は免震という話も出ていたが、その必要はないとお考えのことと思う。

横山・根津
渡辺委員長

杭工法の方が直接基礎工法よりもコスト的に高くなる。

安いから選んだ訳ではなく、安全性も考慮して直接基礎工法の採用を決められていると理解している。

渡辺委員長

上から通っている構造壁みたいなものがあまりないが、純ラーメンで解いているのか。

横山・根津
渡辺委員長

純ラーメンで考えている。

その分柱が太くなっているのだと思う。

純ラーメンは平面計画のフレキシビリティが高いので将来的なことを考えても妥当だと思う。構造についてはかなりしっかりとお考えになっておられるということで宜しいのではないかと思います。

引き続き設備の話をしていただいて、最後に仕上げの話をお願いしたい。

5. 設備設計について

○設備熱源の見直しについて

前川・田中

3月11日の東日本大震災に伴い、建築設備熱源の選択について再検討を行った。

—映像及び資料 16 による説明—

基本設計時において、熱源の大半を占める空調設備を、イニシャル+ランニングコスト、メンテナンス、CO2 対策、直接災害時の復旧時間等について有利と判断して電気エネルギーを選定した。しかしながら、今回のような災害時のエネルギー対策として有効な電気、ガスを目的に合せて選択して利用することが有効と考える。

ランニングコスト、CO2 発生量については1年前のデータを基に試算するため、原発事故により今後の予測は不確定である。

しかし、これからすぐに原発の代替エネルギーが得られる訳ではなくエネルギーの安定供給を主眼に考えて、冷暖房用熱源を節電効果があるガスにすることを提案する。

渡辺委員長
前川・田中

伊藤委員からご意見等はあるか。

伊藤委員への回答も用意してあるので、そちらからご説明する。伊藤委員から質疑が挙がっていたのは実際に皆さんが直接使われる部分についての話で、これらの設備については上記の理由にて本施設にガスを導入することを前提に再検討した。

下記のように提案する。

- ・陶芸窯：屋内の密室であること、安全面、管理面より→電気式
- ・生活室 B(調理機器)：電気式・ガス式は、利用勝手に選定可能
生活室 A (保育的要素) と連携で利用する場合は、大人が管理する
- ・給湯室：スペースが狭い、安全面、管理面より→電気式
- ・飲食コーナー(調理機器)：スペースが狭い、安全面、管理面より→電気式

伊藤委員

生活室 B については、図面上でコンロが 3 台になっているが、洗い場と調理台とコンロのセットが 2 セットでよいと思う。

伊藤委員

ガスが使えるのは非常にありがたい。震災があつてから、電気炊飯器とガス炊飯器の両方が使える方がよいのではないかと考えるようになった。私の身内が盛岡にいて、被害は少なかったがそれでも 3 日停電があつた。ガスは使えたのでご飯も炊けて生活出来たが、向かいにあるアパートがオール電化であつたため、若い夫婦のために赤ちゃんのミルク用のお湯を 3 日間沸かしてあげたらしい。そういった話を聞くと、ガスと電気が両方使えるようにしていただけるとありがたい。実際に電磁調理器を使われている方に言わせると、初動の熱源が弱いため調理に時間がかかったり、お料理が美味しくないというようなお話もあつたので、そういう意味ではガスも使えたと助かる。出来れば飲食コーナーも同じようにしていただきたいが、そこについてはもっと詳しく話を詰めたと思っている。

渡辺委員長

今のお話しでガスももつてこようという基本方針にはなつたが、個々の場所に何をもつてくるかは早く決めておかないと、全部の部屋にガスも電気も準備するのはかなり無理があるので、こういう理由だからここは何にしてほしい、ここはガスと電気の両方ほしいというようなことをお考えになつてはつきり示していただきたい。なるべく早い段階でメモ等を出していただけるとよいと思う。その範囲でコストアップにならないのを見越して、上手くみていただきながら設計事務所の方で調整していただければと思う。全体の冷暖房はガスでよいのか。ガスは安いのか。

先程、話の順序を間違つてしまつたが、ご指摘のお話で調理にガスがあつた方がよいとは思ふが、オール電化からガス中心へとだいぶ話が変わつてきているが。

前川・田中

どこに主眼をおくかについて市とも協議したのだが、節電ということに関してガスは貢献出来るだろうと考えている。ここ数年で太陽光発電や風力発電で賄えるようになるとも考えにくい。また、現在市の方で行っている学校の改修でもガスのヒートポンプに替えていっていると伺つた。インシヤルコストについては非常に均衡していて、どちらかという電気が方が安いと思われるが、節電に主眼をおいてガスを提案させていただいた次第である。

渡辺委員長

了解した。それは設計者だけの判断ではなくて、市の判断もないとそういった大きな決定は出来ないので、小金井市がそういう方向で今後進めていくということだと思ふ。

渡辺委員長

それでは皆さんには前に出ていただいて、サンプルについてのご説明を聞いていただきたい。

—資料 16、模型及び各種サンプルによる説明—

素材についての提案（色、柄やサイズ等については今後検討）

天井

- ・吸音性のあるもの→ロックウール吸音板

□床

- ・エントランスロビー：耐久性、防汚性→磁器質タイル
- ・図書館：吸音性→タイルカーペット
- ・お話し室：温かみ、クッション性→コルクタイル
- ・フリースペース：耐久性→リノリウム（天然素材）
長尺塩ビシート（ビニール系）
- ・水廻り：メンテナンス性→長尺塩ビシート
- ・生活室 A・B：メンテナンス性→長尺塩ビシート
- ・学習室 A・B：吸音性→タイルカーペット
- ・IT ルーム A・B：吸音性→タイルカーペット
- ・学習室 C・D：耐久性→リノリウム（フリースペースと揃える）
- ・創作室：メンテナンス性→長尺塩ビシート
- ・北町ホール：クッション性→鋼製下地＋フローリング
- ・事務室：配置変えへの対応→OA フロア＋タイルカーペット

□壁

- ・基本的にはペンキ仕上げだが必要に応じて吸音壁を設置
- ・図書館：ペンキ仕上げ
- ・北町ホール：吸音性、音響効果→天然木練付吸音板

□既製パーティション（固定間仕切り・移動間仕切り）

- ・必要に応じて遮音のグレードを上げる
- ・フリースペースに面する部分は視覚的に通る設え
（遮音性についてはメーカーと検討中）
- ・基本的にガラスは透明で考え、必要に応じてブラインドやロールスクリーンで対応する

□扉

- ・中が覗けるようにガラススリットを設ける

渡辺委員長

主な部分のご説明いただいて、内部のガラスについてくもりガラスにするかどうかの話が出ていたが、基本設計で決定済みのことなので、設計者がそうしたいのであれば出していただいて構わないが、そうでないなら出さないでいただきたい。

ざっと見せていただいて、皆さんの方で分からない点などはなかったか。ご提案いただいている内容は、そんなに特殊なものではなくて皆さんが普段からご覧になっているようなものが多いと思う。その中で天然リノリウムは特殊な部類ではあるが。

伊藤委員
渡辺委員長

飲食コーナーについてだが宜しいか。

飲食コーナーの部分については落ちがないようにやっていただく。

その他にも例えばトイレについて言えば、どういう便器を使うとか、そういうところからきちんとやっていただきたい。洗面器につ

いても高齢者や身障者の方に配慮してこういったものを使うというのを全部みせていただきたい。

渡辺委員長

飲食コーナーのカウンターがどれくらいの大きさでどのように使えるかをお聞きしたいのだと思う。そのあたりを次回までに話を詰めていただいて報告してほしい。

前川・橋本

飲食コーナーについての運用とどういったものを提供するかによって設えも変わってくるのだが、我々は軽食程度しか考えていない。決定でないまでも、こういったことを考えているみたいなことがあれば教えていただきたい。

伊藤委員

以前から要望しているのだが、出来れば昼食と飲み物を提供する場所にして障害者の働く場としていただきたい。この前からそういった関係の施設を見させていただいているが、そんなに多くのメニューではなく昼食を必ず一食作ったり、色々な関連の障害者施設からパンやお弁当等の作っているものを持ち込んだり工夫するが、市の方で煮炊きすることを許可されているのかどうか。色々な施設を見ると障害者の働く場として機能が低下している公民館も多いのでそういった食事計画が出来るような飲食コーナーにしていきたいと思っている。

あの場所はすぐ近くにコンビニにもなく、一緒に市民講座に参加されている方も是非つくってほしいと要望されている。職員の方も近くに食堂がないので、昼食を提供出来れば助かるのではないか。年配の方も図書館に一日いたい食事を取りに一度帰らなければならぬのでつくってほしいという話が前々からあった。是非、市として障害者の働く場を提供していただきたい。

前川・橋本

確認だが、昼食を作るというのは煮炊きをして調理するということで、一方でパンやサンドイッチといった出来合いのものを持ってきて販売もするということか。

伊藤委員

その通りである。

前川・橋本

作るものの内容によって機器の種類も変わってくるので、どの程度のものを考えているのか。

伊藤委員

私が考えているのは一日一種類のものを作るくらいで、例えば月曜日はカレーの日で火曜日は麺にするといった感じで、あそこで揚げ物はしないようにするつもりでいるが美味しいコロッケ屋さんがあるのでそこから仕入れたり、市内の地域から美味しいものをピックアップしてそれらを付け合せるとか、そういったことを考えている。

前川・橋本

イメージとしては一般家庭のキッチンで賄えるようなものということか。

伊藤委員

そのような感じである。流しは二槽にしていきたい。

渡辺委員長

今のようなお話もまずは市と協議していただいて方向性をきちんと決めていただかないと、この委員会ではどういう団体が入ってどうするという話をするのではなく、その決まった方向についてこ

のスペースに上手く入るかどうとか、そういったことを検討する場なので、是非早い段階で伊藤委員とお知り合いの団体と市が協議をして、委託管理者を選ぶのか分からないが、方向性を決めてほしい。

渡辺委員長

設備的には今のお話しで前川事務所の方もイメージできたと思う。

雫 委員

食事はどこでとるのか。

渡辺委員長

図面ではカウンターがあるので、カウンターでとることになる。

伊藤委員

以前はカウンターの横にテーブルがあった。

前川・田中

座席を消したことに大意はない。

渡辺委員長

考え方によっては2階のフリースペースを利用することも可能かもしれないが、食べ物を持って上がる途中に階段で転んだとか、色々考えられるし、飲食に関しては結構面倒な部分もある。保健所の話とかも出てくるので、まずは市と大卒の相談をして方向性を決めていただきたい。

平井委員

今の話で近所の方がお子さんを連れて行って、家に戻らずに食事がとればよいと思っている方もいらっしゃる。

六日間全部となると障害者の方も大変であれば、若いお母様の中にはそういったことをしたいとおっしゃっている方もいるので、曜日で分けて分担することも出来るのではないかな。

渡辺委員長

そこが難しいところで、上手くいけばよいが、一つの場所を複数で使うのは難しい。これもここで議論する内容ではないが、例えば、あるNPOにお任せして、そのNPOの中で障害者団体もあり若いお母さんの団体もあるというように、そこに責任をもってもらわないと揉め事のタネになる。

平井委員

全部やっていただければ助かるが、それはかなり大変ではないか。

渡辺委員長

そのあたりは色々なお考えもあろうかと思うので、そういった意味でも早い時期に市と相談していただきたい。

渡辺委員長

今日もまた時間をオーバーしてしまい申し訳なかった。
次回の開催日程について事務局からお願いしたい。

6.次回の日程について

山崎庶務係長

第4回目は、当初の計画だと10月6日(木)午後7時からだが、現在の進捗状況から、今後の計画や準備に要する日程の点で、建築設計事務所のご都合はいかがか。

前川・田中

10月は、できれば後半の27日(木)に変更を願いたい。

山崎庶務係長

当初10月の開催を6日(木)で予定した折に、27日のこの会議室の予約をキャンセルしているので、確認を要するが、現時点では、委員の皆様にご提案させていただいた複数の日程案の中から、前川建築設計事務所のご都合、委員長、副委員長のご予定を優先させていただき、次回は10月27日(木)午後7時から、会場は予定

どおり、市役所第二庁舎8階801会議室での開催とさせていただく。調整が取れ次第、会場の変更が必要な場合は、事務局からご連絡するというご了解願いたい。

渡辺委員長

次回まで二ヶ月弱日があるので、先程の飲食コーナーについても市と打合せをしていただいて、もう少し具体的に今後のことが出来るようにステップを踏んでおいていただきたい。

渡辺事業係長

施設研究講座の発表会が9月24日にあるので、ご都合の付く方にご参加を。

平井委員

11月の予定をたてたいのだが、10月の27日に開くとなると、その次は11月24日になるのか。

前川・橋本

11月13日では準備期間が短いので、おそらくそうなると思う。

渡辺委員長

長時間お疲れ様でした。

(仮称) 小金井市貫井北町地域センター建設実施設計
市民検討委員会 (第3回) 次第

日 時：平成23年9月8日 (木)

午後7時～

場 所：市役所第二庁舎8階
801会議室

- 1 前回の質問事項等について
- 2 図書館のゾーニングについて
(蔵書数を減らした上での書架配置等)
- 3 公民館主要諸室の利用形態の確認と仕様について
(第2回市民検討委員会の続きと遮音についての考え方)
- 4 構造設計について
- 5 設備設計について
- 6 次回の開催日程について
- 7 配付資料
 - (1) 質問事項回答一覧 …実施設計検討委員会資料 10
 - (2) 小金井市子ども文庫サークル連絡会からの要望書 …実施設計検討委員会資料 11
 - (3) 1階平面図・2階平面図 …実施設計検討委員会資料 12
 - (4) 室内騒音の許容値・遮音性能に対する音源別の聞こえ方
…実施設計検討委員会資料 13
 - (5) 遮音グレード検討図 …実施設計検討委員会資料 14
 - (6) 仕上表 …実施設計検討委員会資料 15
 - (7) 空調熱源 システム比較表 …実施設計検討委員会資料 16

質問事項回答一覧 (7/28、8/10、8/13受付分)

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
1	7月28日	松尾昇治	<p>1. 参考図書コーナーを右へ戻すとなると、調べものをするためのデスクも合わせて持っていく。書架は順次左に寄せる。西窓はデスクのない状態で西日対策をする。</p> <p>※(前川建築事務所様) 構造計算のことは分かりませんが、素人の考えとしてお聞きください。西日対策として<u>南窓・西壁</u>にすることはできないのでしょうか。</p>	<p>キャレル席もセットで移動させますが、西側は閲覧用机を残します。</p> <p>構造的には南窓、西壁にすることは可能です。ただ、図書館の利用者が訪れた際、或いはカウンターの辺りから内部を見回した際に、西面を壁にしてしまうと外部に視線が抜けず、閉じられた空間に感じられてしまいます。西日対策は、硝子素材の検討、ルーバーの設置、一部壁面の設置等について建物の外観も踏まえて検討しております。</p>
2	7月28日	松尾昇治	<p>2. 市民読書ボランティアの使える部屋の確保はいままで重点的に議論してきたことです。第2回会議において、「ふあ、ふあー」と消えてしまいましたが、<u>慎重な議論が必要</u>と考えますので、再議をお願いします。</p> <p>個人情報保護することを述べておられますので、その視点も加味して私案を提案します。事務室内の応接セット(?)は不要と思われるので、作業スペースを右に寄せる。事務室と開架室との出入口を(図面参照)上へ移し、ボランティア(職員も含む)の出入りと通路を確保する。作業室とは移動式のアコーデオンパネルで仕切る。図書館職員の応接も多目的室でおこなうことができます。なお、多目的室のスペースが2メートル四方と狭いので左右の壁面書架は不要とする。(奥はあってもよいと思います。)常識ある大人が使うスペースですから、遮音性の確保が本当に必要なかは疑問です。</p>	<p>図書館を運営するためには、適切な広さの事務室・作業室・更衣室などが必要と考えています。</p> <p>第2回会議においては、その点も併せ検討していただいた結果、多目的室は設けないとの結論に至ったと認識しております。現状の限られた図書館スペースから考えても、2階のフリースペースを含む部屋の利用(図書館の配慮で文庫連等の定期的な活動については、公民館部分を優先的に予約して確保する等)地域センター全体の運用で対応するとの話し合いがされたかと思えます。</p>

質問事項回答一覧 (7/28、8/10、8/13受付分)

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
3	7月28日	松尾昇治	3. カウンターの位置ですが、職員側書棚との距離が1メートルしかありません。これでは、職員が仕事をするのに窮屈です。カウンターを左に寄せて、職員のスムーズな動きを確保する。また、返却用ブックトラックを置く位置とスペースも考えなければなりません。カウンターは据え置き(固定)してしまうのか、移動できる状態にしておくのか、どちらでしょうか。	カウンターと職員側書棚との距離は、あまり遠いと使い勝手がよくありませんので、このくらいが適切と考えています。 カウンターは固定します。
4	7月28日	松尾昇治	4. 事務室からカウンターへの出入り口は、幅が85センチメートルしかありません。ここも狭すぎます。複式2連の書架は少なくとも1連はいららないでしょう。2連なくともよいと思います。	特に狭いとは考えていません。 事務室内のレイアウトについては、職員にお任せいただければと思います。
5	7月28日	松尾昇治	5. 緑陰読書テラスへの出入り口は、避難路としての幅を確保する意味からも1間の幅にする。また、児童室には出入り口が2つ設けてありますが、成人側にはありません。ブラウジングコーナーからテラスへの利用者の動線は多いと考えられます。従って、出入り口をブラウジングコーナーの方に移動する方がよいと考えます。	テラスへの出入り口の一つは、メインストリートの突き当たり位置することになりますので、特に支障はないと考えています。また、管理面からも、カウンターから見える位置でもありますので、現状のままで良いと思います。出入口の幅は、操作性も考慮し、検討します。また、テラスから敷地外(歩道)へ降りれる通路の確保を検討します。

質問事項回答一覧 (7/28、8/10、8/13受付分)

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
6	7月28日	松尾昇治	6. 図書館出入口からの通路と児童開架室との仕切るイメージになるように、単式書架を置くことを提案します。	書架だと圧迫感が出ると思われますので、何か別の方法で仕切ることを検討します。
7	7月28日	松尾昇治	7. お話し室の出入り口の間口を広く。	広げる方向で検討していきます。
8	7月28日	松尾昇治	8. ブックポストの位置は、エレベーターの左横とする。(費用対効果のこともありますが、表側と裏庭との両方に設置することも考えられます。)	設置場所についてはエレベーター脇ということで、検討していきます。2つは必要ないと考えています。
9	7月28日	松尾昇治	9. 2階の【学習室AB】のプロジェクターについて。これも簡単に変更になってしまいました。焦点距離の短いプロジェクターもありますので、製品を選択のうえ、教卓やスクリーンの位置を変える必要があるかどうかをご判断いただきたいと思います。	プロジェクターは、過日の市民検討委員会の中で、「より広い部屋である学習室Aの方に据え付けては」という提案があり、了承されました。プロジェクターの製品選択、焦点距離、スクリーンの設置位置等につきましては、この範囲で設計者と打ち合わせの上、適切に選択をしていきます。学習室Aでの設置で対応することが出来ますので、問題ありません。

質問事項回答一覧 (7/28、8/10、8/13受付分)

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
10	7月28日	松尾昇治	<p>10. 【ITルームAB】について。ITルームは市内施設にはなく、ここの特徴ある機能(活動)となると考えます。公民館諸室検討案によりますと「ITパソコン相談室、講座アーカイブ、事業情報データベース、関係サークルやボランティアの活動ルーム」が想定される活動となっています。ここは、デスクトップを設置し、市民やサークル関係者などが気軽に使える環境にしておく必要があります。インターネット情報の閲覧やワードやエクセル、パワーポイントを使って作るサークル紹介や学習会のための資料作成など、日常的な利用は多様に考えられます。普段鍵の掛かったロッカーにしまわれるノートパソコンでは、「宝の持ち腐れ」になりかねません。市民に十分利用されるような投資効果をねらってもらいたいと考えます。</p> <p>※添付図面がありますので、委員への配布資料としてください。</p>	<p>【ITルーム】の想定は、現在5館で、週2回実施しているITサポートセンターによるパソコン相談室と同様の環境と考えており、他には、主催や共催により、公民館が関わる講座を実際に実施する際の設備として考えています。市民の需要があれば、通常の会議室としても使用できるよう、パソコンは常設のデスクトップとはせず、従来と同様、ノートパソコンの貸し出しとし、通常は鍵のかかるロッカーに保管し、必要に応じて使用するものとする予定です。その際、セキュリティ管理の観点から、公民館独自の設定をしなければインターネットへの接続は出来ない制約を設けることといたします。</p> <p>ITルームに限らず、館内で持ち込みのノートパソコンを、利用者が自ら契約しているプロバイダ経由で自由に利用することが可能となるためのホットスポット(現在各5館に設置済み)と同様の機能は、貫井北町地域センターにも設置予定です。</p>

質問事項回答一覧 (7/28、8/10、8/13受付分)

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
11	8月10日	松尾昇治	<p>[6/28] 質問27とその回答では、「市民開放用インターネット端末については、図書館に設置したほうが市民の利便性は高いのではないかと考えていますが、設置にあたってのスペースも考慮する必要があります。」となっています。</p> <p>このことは、図書館として、スペースの確保ができれば、市民の利便性から情報機器端末を設置したいと考えていると理解いたします。ぜひ、設置をお願いしたいところです。</p> <p>設置場所については、参考図書コーナー近くの壁面読書デスク(3席)が利用できます。</p> <p>プロバイダーの明示は致しませんが、WiFi無線LANを利用したルーターで同時に10台接続可能なサービスが月額4000円以下で提供されています。</p> <p>PC端末も5万円程度ですので、3台ですと15万円ほどの予算で購入可能です。</p> <p>さらに図書館の情報提供サービスとして、日経テレコン21、新聞記事データベース(朝日新聞「聞蔵Ⅱビジュアル」)、JapanKnowledge程度は必須です。共にライブラリー価格が設定されていると思います。これらの有料データベースを小金井市民が個人で契約するのでは、経費の負担が大変です。他市に負けないように(「小金井市民のために」の意)、小金井市のどこかに、市民利用が可能な有料データベースを用意することは意義のあることであり、貫井北町地域センター図書館オープンに合わせて設置することはグッドタイミングと考えます。</p>	<p>ご意見として伺っておきます。</p> <p>将来対応として、建築設備的な対応はしていきます。</p>

質問事項回答一覧 (7/28、8/10、8/13受付分)

No.	受付日	質問者	質問事項	回答
12	8月13日	伊藤耐子	<p>公民館設備の陶芸窯、調理室のコンロ、及び1階の飲食コーナー等の熱源について、小金井市としてはガスを使用せず、電気仕様の方向でというお話でしたが、その後、3/11の東日本大震災と原発事故により、国民に節電が求められており、以前と状況が変わりました。以下の事由により熱源としてガス仕様も含め、再検討していただきますようお願いいたします。①ガス仕様につきましては、最初の配管工事に費用がかかりますが、月々の使用料はかなり安く上がり、長期使用を考えますと節電、節約になると考えられる。②全体で一種の電力のみで賄うより、ガス仕様を備えることにより、震災等災害発生時には、停電になってもガスで煮炊きが出来るという利点があると考えられる。</p>	<p>貫井北町地域センター全体の空調熱源及び、ご指摘の公民館設備熱源について、再検討結果を検討委員会にて報告予定です。</p>



小金井市貫井北町地域センター市民検討委員会
委員長 渡辺真理 様
小金井市立図書館館長 田中 肇 様



要 望 書

小金井市貫井北町地域センター図書館分館の中に、市民ボランティアが使用できる部屋・サポーター室を確保してください。

小金井市子ども読書活動推進計画から引き続き第2次計画のなかに、こどもたちに読書へのいざないをするための、市民協働を目的にボランティアの養成と連携が図書館の仕事としてうたわれています。

ボランティアをしている文庫連のメンバーも、仲間を増やし、質を向上させ、職員の方々と共にこどもたちへのサービスの質を向上させる事を望んでいます。

その目的のために図書館へ本を求め頻繁に出かけます。そこで本を選び、おはなし会の内容について話し合い、準備をする事が必要になります。

現在、本館にはそのための場所がありません。それで2階ヤングアダルトコーナー横の椅子や、階段のところで、相談をしたり準備する手立てを話し合っています。

講演会に使う参考図書の資料(講師の作品等)を準備するにも作業の場が必要です。

又、絵本の勉強会では絵本を20冊ほど用意します。多くの資料の中から必要な本を選び、リストと照合するのですが、その作業をする場所がなく、児童室の子供用のテーブルに、「ちょっと、置かせてね」と端のほうを使っています。

今度、本館に次ぐ大きな図書館が北町分館として開設されることになり、市民は期待に胸を膨らませています。開館後は各小学校、中学校、ボランティアグループ等へ団体貸し出しが出来ると考えています。その場合も本を選び検討する場所が必要です。

現在、本館での団体貸し出しは、カウンターのそばで、ダンボールがいくつも並び、あわただしく、つまこまれ、みなさんで検討する場もありません。

貫井北町地域センター分館では、成人とこどもが、ワンフロアです。ましてや本選びの話し合い等声を出す行為は、来館者に迷惑になるので出来ません。

またこの分館には待望の本格的な“おはなしのへや”ができるので、小河内芳子先生(小金井市在住24年、図書館児童サービスについてのパイオニア)の遺志を継いで、小金井市で本やおはなしをこどもたちに届けている人たちの間に、そこで協力していきたいとの声が広がっています。このように貫井北町分館では市民のボランティア活動は活発になる事が予想されます。

図書館の職員と市民が協力してこそ魅力的な分館となるでしょう。

以上、図書館を中心としたボランティア活動が、よりよく発展するためをお願いするものです。

平成23年8月25日

小金井市子ども文庫サークル連絡会 代表

TEL